

贈 昭和 年 月 日
寄 伊藤 益氏

DA
324
726
E

国家と個人の問題に関する

倫理学的研究

—— 古代日本人の政治思想と言語観

および倫理観をめぐって

筑波大学大学院博士課程哲学・
思想研究科倫理学専攻

伊藤 益

目次

序論

一 研究の目的

二 時代設定

三 研究の具体的方法と

本稿の構成

四 資料の選定

1

1

16

22

36

注

第一篇 古代日本人の政治思想

と国家意識

45

第一章 天命思想の受容と

その変容

46

第一節 天神・仁徳王朝から

継体王朝へ

46

第二節 聖帝仁徳から聖帝

武烈へ

69

第三節 天命思想による王朝

交替の正当化

94

第四節 万世一系の思想の

確立期

111

第五節 天命思想の移入期

129

第六節 天命思想の変容

146

注

173

第二章 「非革命の思想」の確立

199

第一節 アキツカミ思想と

大嘗祭の思想

199

第二節 アキツカミ思想の構造

223

第三節 蕃国新羅

335

第四節 中華思想

349

第五節 没我的献身の林揚

364

注

384

第二篇 日本古代における「母国語

意識」の成立と展開

399

第一章 「母国語意識」とナショ

ナリズム

400

第一節 後進国民の「母国語

意識」

400

性格

488

第六節

「言霊思想」における

Sollen の問題

502

注

519

第三章

「言霊思想」に基づく「母

525

国語意識」の発揚

第一節

柿本人麻呂の「母国語

語意識」

525

第二節

「言孝げ」考

549

第三節

「言孝げせぬ国」から

549

									言挙げする国へ	567
								第四節	山上億良の「倭我意識」	600
								第五節	皇祖神と言霊	619
								注		637
								第四章	皇権と倭歌	657
								第一節	古典的規範の成立	657
								第二節	家持の「伴造意識」	669
								第三節	記紀的精神の継承者	
									としての家持	690
								第四節	白鳳皇権と倭歌	711

第五節 「個」の文芸へ

注

第三篇 古代日本人の倫理観

第一章 「天ヲ罪・国ヲ罪」論

第一節 アメ・クニ双分法

第二節 スヤノヲの乱行と

「天ヲ罪」

第三節 「天の岩屋神話」と

宮廷祭祀

第四節 大嘗祭を汚す罪

820

802

794

786

786

785

746

723

第三節

女帝の側の論理

874

第四節

政治的倫理觀と幸福主

義的倫理觀の相剋

875

注

913

第三章

古代日本人の「恋」意識

921

第一節

ひとり寝の「ひとり」

921

第二節

孤りの悲しみとして

の恋

936

第三節

恋の原因

948

第四節

恋における「個」と

第七節 国家の意志と個人の意志

1098

注

1117

結論

1135

一 絶対者としての国家

1135

二 古代ギリシャ・ローマの

国家観——概論——

1144

三 古代日本人の国家観の特徴

1159

四 国家とその支配者とを一体視

する思考の由来と意味

1168

五 日本の古代国家における

